女子学生が描く キャリアプランと現場の実際

特集

学生×社会人 座談会

女性の「キャリア形成」のために大切な要素は何なのか――。現在、就職活動に取り組む女子学生（埼玉大学教養学部）と、キャリア形成中の20代の女性にお集まりいただき、女性のキャリアプランや現実の厳しさ、あるべき職場環境などについて語っていただきました。

※本文中敬称略

【専門的・技術的、管理的職業従事者における女性比率の推移】

	就業者			専門的・技術的職業従事者	管理的職業従事者
	総数(万人)	女性(万人)	女性比率(%)	女性比率(%)	女性比率(%)
1980年	5,536	2,142	38.7	46.8	5.0
1990年	6,249	2,536	40.6	42.0	7.9
2012年	6,270	2,654	42.3	46.2	11.1

出典：総務省「労働力調査」

就業者に占める女性の割合は 4 割を超えているが、管理的職業従業者に占める女性の割合は約 1 割。まだまだ女性の登用は進んでいないと言える。

女子学生が描くキャリアプラン その理想と現実

杉平　将来のキャリアについては、まだ明確に見えていません。いずれは結婚もしたいし、子どもも欲しいのですが、まずは就職した会社で仕事を頑張りたいという思いが強いですね。

柴崎　私は4人きょうだいで育ったので、将来は子どもがたくさんいる、にぎやかな家庭をつくりたいです。ただし、今は将来のことよりも、目の前の就活を乗り越えることで精一杯というのが正直なところです。

斉藤　私が就職活動で最も重視するのは、やりがいが持てる仕事であるかどうかという点です。就職したらバリバリ働いて、将来は管理職にも就きたいですね。

鈴木　今4年生ですが、5月までアメリカに留学していたので、来年度の卒業を目指して、目下、就職活動を展開中です。将来については、昇進して組織の中でマネジメントをするよりも、現場で地道に仕事を続ける方が私には向いているかなと考えています。

「やりがいが持てる職場でバリバリと働いて、将来は管理職も目指してみたいです。」

斉藤芽吹さん（3年）

「自分が任せられた仕事で、成果を上げることができたときの喜びや充実感はひとしお」

水野友貴さん

社会人6年目。相互扶助の考え方に魅力を感じ、新卒で団体職員に。同じく座談会に出席した水野彩貴さんは双子の姉。

平田　社会人の先輩としてアドバイスすると、仕事をする中で、思い描いていた理想と現実のギャップに悩むことも少なくありません。私の場合は、ある程度自信を抱いて、広告ディスプレイ会社に営業として入社したのですが、同時進行する30以上の案件をうまくハンドリングできずに、「自分はこんなにもできないんだ」と挫折感を味わいました。結局、月の残業時間がピーク時には200時間を超えるハードワークをこなす中で、体を壊して退社したという苦い経験があります。

「仕事は人を成長させる！　挫折感も味わいましたが、あのときの経験は今に生きています」

平田奈央さん

社会人7年目。新卒で展示会出展や販促イベントのサポートを行う広告ディスプレイ会社に就職。現在は、高等教育機関で広報業務に従事。

「将来はにぎやかな家庭をつくるのが夢。そのためのキャリア形成も考えていきたい」

柴崎友加里さん（3年）

「女性が働きやすい環境をいかにつくっていくか、社会全体で考えていくべき問題だと思います」

水野彩貴さん

社会人6年目。新卒で求人情報サービス会社に就職。編集会社を経て、現在は飲食チェーンの本部で販促業務に従事。

水野（彩）　私は人間の衣食住を支える「働くこと」に直接つながる人材業界に魅力を感じ、求人情報サービスを行う会社に入社しました。アポイント取りのために1日に電話を100件近くかけて、営業に走り回っていましたが、リーマンショックの影響で会社の規模が縮小。そのことをきっかけにまったく違う業種の会社に転職をしました。

水野（友）　私は相互扶助の考え方に魅力を感じ、ある協同組合に就職し、以後、ずっと勤めていますが、理想と現実のギャップはそれほど感じていません。職員の3分の1は女性ですが、出産をしても産休や、育児休暇を経て、復帰するケースがほとんどです。恵まれた環境かもしれません。

水野（彩）　私が最初に勤めた会社も、産休や育児休暇などは整備されていたのですが、実際の運用という面では、ベンチャー企業で社員の平均年齢が若かったこともあって、当時はあまり利用されていませんでした。

平田　同じですね。前職では産休・育休後、職場復帰できる仕組みが必要だと、同僚と意識共有していましたが、復帰後はアシスタントに職種変更するなどの現実がありました。今の職場では、職種変更なく復帰できる制度が活用されています。

問われる、社会全体の意識変革

杉平　先輩方のお話を伺って、自分が将来何をしたいのか、どういう人生を歩みたいのかをしっかりと念頭に置いて、就職活動にも取り組むべきだと改めて思いました。

柴崎　私は営業職を目指しているのですが、やはりハードな現場なんだなというのが率直な感想です。

斉藤　正直、結婚や出産などの問題が自分にどうかかわってくるのか、具体的にイメージできない部分もありますが、とにかく仕事の大変さはよく分かりました。

「結婚や出産などライフプランについても明確にイメージしながら、就職活動にも臨みたい」

鈴木悠里さん（4年）

鈴木　特に出産後、職場に復帰して、仕事ができるかどうか不安が出てきました。

平田　ちょっと驚かせてしまったかもしれないけど、私はやっぱり最初の会社に入ってよかったと思っています。今は大学で広報の仕事をしていますが、あのときの経験が今の職場でも生きています。最初の会社を辞めてから1年ほど仕事をしていなかった期間があるのですが、その時は社会からの疎外感を強く感じました。仕事は社会とつながるきっかけの一つになるとともに、人を成長させてくれます。

水野（友）　それに自分が任せられた仕事で、成果を上げることができたときの喜びや充実感はひとしおです。正直、自分の働きが人の役に立っていること

「私自身、男性と同じように働けるのか、不安なところもありますが、意識を変えることから始めたい」

杉平ほのみさん（3年）